

# 包容力 ～「現在」の「現在」～

社会福祉法人 愛成会 常務理事  
愛成学園 施設長 片山 泰伸

ほんの30数年ほど前だと思います。当時、家のまわりには緑の田んぼ、空き地がたくさんあって、道路には今ほど車が走ってなかったように思います。夜8時にもなると、家中のものがお風呂、夕食をすませていて、お話をしたり、テレビを見たりしていたものです。

そんな風景は、今はもう無くなってしまいました。どうして、こんなになってしまったのでしょうか。

今の世は、あまりにも性急すぎます。そして、他を拒否することがあまりにも多すぎるように思います。「早く・きちんと・しっかり」を合言葉に、子どもの時代に教育され、日本は急激に高度経済成長を成し遂げました。その結果、確かに「目に見えるもの」は立派になっていきました。しかし逆に、「目に見えないもの」については「目に見えるもの」のスピードのついてゆけていないように思っています。

特に、ここ5～6年ででしょうか。「いじめ」「暴力」「殺人」「医療」「福祉」「教育」「自殺」等、人が他を受け入れることを忘れたことに起因する問題が、マスメディアを賑わせています。その報道のし方も、「生命」の重さを伝えるのではなく、他人事のように伝えている感が否めません。日本そのものが、あまりにも慌しく、弱々しく、小賢しい姿になってきているようで、もううざりしています。

しかし、このような時代にも利用者の皆さんは、淋しさに耐え、遠慮もされ、時にはおもいあまって激される事もあります。愛成会とのつながりを期待されているように思います。その際には、辛抱強く、相手を知ろうと努力もされ、待ち、励まして、決して拒否されたり、排斥する事は少ないように思います。そしてしばらくすれば、スタッフをスタッフのように変えていくのです。

このプロセスは、「全てを受け入れ、ゆっくりとまわりを浄化していく自然の営み」に通じるものを感じます。そしてそれらは、共通して健全で、逞しいものを感じるのです。そういった点で、利用者の皆さんほど、「包容力」という点で、大きな力を備えている人たちはいないと思ってしまうのです。

利用者さんの多くは、この貧しい文化の世の中で傷つき、排斥された人達だと思います。その傷は大変大きく、深いものです。何人かの人達は、傷を癒すために暴力を振るったり気分が高ぶった日には、夜眠らずに歩き回ったりされます。そのため、施設内の中は混乱したり、怪我を負わされたり……という事も全くないとは言えません。

けれどもそんな時にでも、平然として不平も言わず静かになるのをじっと耐えて待っていたのは、利用者の皆様だと思います。自分の受けた迷惑など全く考えようとせず、事態の好転することをひたすら祈っている姿に気づく時、頭の下がる想いが致します。

「愛成会」は今年(2008年)、50周年を迎える事になったそうです。僕もお世話になるようになって丸9年になりました。この間、やはり利用者の皆様の「包容力」に支えられ、その確信を覚えていただいたからこそだと思っています。この利用者の持つ力は変わらないと思います。そして、その力に多くの教えられるところがあるのです。決してマンネリ化しないように、自身、学ぶ姿勢と感性を磨いていきたいと思っています。

知っているも、知らないふりをするのが大人なら  
私は、知らないのに知ったかぶりをしたい  
まじめだが、非良心的なのが

大人なら

私は、ふまじめだが良心的でありたい

常識を教えるのが

大人なら

私は、その常識をやぶりたい

礼儀正しいのが

大人なら

私は、無礼でありたい

「北山 修:エッセイ」より

利用者の皆さんから見ると、僕などは、まだまだ未熟です。怒られ慣れている利用者さんから見ると、僕など、我ままの屋の、生意気屋です。もっとも傷つけられないといけないうのだと思います。豊かな想像力を持って、明るく楽しい世界が創造されること。これこそが私たちの「包容力」に対する使命ではないかと思えます。

最後に、自分自身も「肉体・心」も鋭さを失ってきている事は否めません。がしかし、スタッフも始め、多くの方々に助けられどうにかここまで進めてくる事が出来ました。

そしていよいよ、50周年目の改築です。一つの大きな歴史的な区切り(自分自身にとっても)になると思っています。愛成会を応援したいと地元の方が後援会を作って下さいました。この知らせそのものが、新しい「社会福祉法人 愛成会」を新しいものに生まれ変わる機会になるように感じます。「現在の」「現在の」は、改築と改修です。よろしくお願いします。自分の人生にとっても、ボランティアからお世話になり、今にいたっている自分にとっても、「愛成会」とのご縁は不思議なものを感じさせてくれます。岡山の知人達に、「愛成会」でお世話になってみる。」そういって、全員が「それは絶対に止めといた方がいい。悪い事は言わんから。無茶な事は選ぶな。」といってくれたのも遠い昔のように思います。

どうぞ、いいものを皆さんと共に創りあげていきましょう。心からお願いします。

そのためには、これまでの経験を踏まえて、私たちは、自我というものは他者との「相互承認」の産物であることをまずは知ることです。そしてもっと重要なことは、承認してもらうためには、自分を他者に対して投げ出す必要があるということです。他者と相互に承認し合わない一方的な自我は、単なる「わがまま」に過ぎない、利己的なものでしかないのです。もっと言えば、他者を排除した自我というものはあり得ないということです。そこを、利用者の人達は、身をもって教えてくれています。「偏り力: 岡 尚中より」

## 愛成学園改築工事の現況

2009. 3

今年が愛成会創立50周年の年となります。その記念すべき年に、長年の悲願であった愛成学園の建て替えが実現する事になりました。築年数の新しいめぐみ・いずみ寮を除く、残り全棟を取り壊し、一体化した新棟に建て替えるという、これまでにない大規模な工事になります。新しい施設は総3階建、総床面積は2千㎡を超えます。利用者支援において、念願であった全個室化を実現し、ファシリティは各方面と協力し、更に知恵を絞ってまいります。何よりも利用者が自然な暮らしにより近づき、安全で快適な生活を実現する事を念頭においてまいります。そして地域に密接に関わるスペースとなればと思います。狭い場所で利用者が住みながら改築を進めていくため、大変な事もあると思いますが、竣工目指して職員一同頑張っていきます。



11月5日に愛成学園園庭において地鎮祭が執り行われ、いよいよ工事開始です。